

障害児・者複合施設 「ぶるーむの森」開設！

理事長の野田幸子さんに伺いました。

★「ぶるーむの森」ができるまで

2001年からの無認可時代から数えると16年を経過。活動も広がり「ぶるーむの森」に成長したきっかけは2011. 3. 11の東日本大震災でした。借りていた民家がダメージを受け、引っ越しを迫られる事態に直面、重度の障害の方を預かる責任から安全な建物が必要だと痛感したこと。既存の物件は探しても難しいことから建てるしかないと考え始めたことだったそうです。駅から近くて広い土地、そんな物件あるわけないと思いつつ探していたら、あった！駅にも近いし周囲は緑も豊かという、願ってもない場所が見つかりやるしかない状態へ。市との協議の中で、当初は考えていなかった社会福祉法人格取得も視野に入り、法人化と建設が同時進行で進んでいきました。国庫補助金もなく、大きな借金を背負って、念願の「ぶるーむの森」が完成しました。

★できました！

未就学児から大人まで、重度の障害・医療的ケアの必要な方の通所が1か所に揃いました。その他居宅や相談支援、保育所等訪問支援なども行っており、まさに複合施設です。

新しい建物はもちろんきれいで広いスペースがあり、バラ色だと思っていたら、子どもたちはその広さを目一杯使うため職員は今までより大忙しだったり、トイレは部屋の外にあるのは当たり前のようにだけれど、そのちょっとした距離が職員には想定外の負担増だったなど、やってみて初めて気づいたことも。とはいえ、この新しい建物は利用者や家族にとって気持ちよくうれしいものであり、職員にとっても念願のもの。広めの事務所や会議室が確保できて、職員間のコミュニケーションもより円滑になったとのこと。法人化により施設実習の受け入れも積極的に行っていきたい。子どもが小さい、障害のお子さんがいるなど働きづらい方が少しでも働けるようにできるだけ本人の希望に合わせる工夫をして職員も確保、長く働ける場所でありたいとのこと。

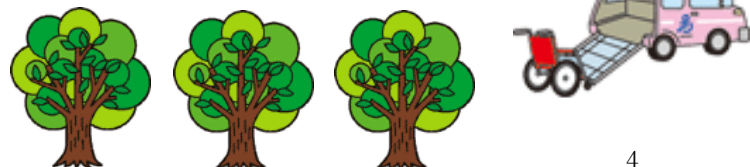
★次なる目標は？

今後の目標は 重度の方のGH、友達が作りにくい軽度障害者と同世代を結ぶような場づくりや家庭の場で子どもと母のコミュニケーションの支援などのインフォーマルなサービスも、企画あたため中。

★メッセージをどうぞ

医療的ケアについて困ったことがあったら、ここに相談できると思ってもらえるような場所であつたらいいですね。

ロケーションも相まって、とても雰囲気の良い建物でした。気負いは感じさせず、現場の声から常に今と先を考えている様子の野田さん。話題はよい意味で脱線しながら、楽しくお話を伺いました。



かしわ
柏うあ〜か〜



社会福祉法人 ぶるーむ

住所：〒277-0085
柏市中原1817-1
でんわ：04-7136-2324
FAX：04-7163-5824



「じんけん」ぽん

(2014.7/No123)

発行日 2014/7/8

社会福祉法人生活クラブ
柏市地域生活支援
センターあいネット
〒277-0004
柏市柏下65-1
ウェルネス柏内
電話：04（7165）8707

目次

生活困窮者自立支援制度推進セミナー	1
アルコール問題関連問題研修	2
むすぶ会総会	2
お知らせ	2
柏市いじめeメール相談および通報	3
・柏うおーかー ・フードドライブ	4

～ひとこと～

関東の海開きは7/20からです。

今年もこの季節がやってまいりました！

平成26年度 「生活困窮者自立支援制度 推進セミナー」に参加しました



これまでのじんけんぽんでも何度か触れてきましたが、H27. 4に「生活困窮者自立支援法」が施行されます。この法律の推進を目的にして、6/4に千葉県、千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会、社会福祉法人千葉県社会福祉協議会が主催した「生活困窮者自立支援制度推進セミナー」が開催されました。

～おさらい～

生活困窮者自立支援法ってどんな法律？

<対象>

現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持する事が出来なくなるおそれのある者

<支援内容>

生活保護に至る前の段階で早期に個別的・包括的に支援をする。

具体的には、相談支援、居住確保支援、就労支援、家計相談、学習支援等を実施。

定員300名の会場はほぼ満席で、関心の高さが伺えました。参加者は地方自治体、中核地域生活支援センター、モデル事業を受託している団体など様々でした。

講師としていらした厚生労働省の生活困窮者自立支援室長の熊木氏からは、冒頭で「生活保護世帯は平成23年に過去最高を更新して以降増加傾向が続いており、その中で稼働年齢層が10年前の3倍強になっている。福祉事務所に来訪される方のうち生活保護に至らない者は、高齢者等を含めて年間40万人いる。」「企業の海外進出、家族、地域のつながりが薄れてきた日本の社会構造の変化に伴い、生活保護に至る前の段階のセフティーネット（第2のセフティーネット）が必要である。」と今回の法律施行に至った経緯の説明がありました。その後、熊木氏が重ねて述べていたのが地域アプローチの必要性について。経済的に困窮に陥った方への個人的な支援だけでなく、地域が連携して、個人を自立へ向かう仕組みや居場所作りが必要であるとの事でした。

千葉市稲毛区の報告では、NPO団体、企業（店舗、物流、リサイクル等）、農家等と連携をして、ボランティアや就労体験（約50箇所）を実施。個人の状況に応じた支援を実施して、一般就労や求職活動を行うための動機付けを目指すとの事でした。

経済的に困窮している方は、病気、障害、失業、借金、家族問題等、様々な課題を複合的に抱え、誰にも相談が出来ず、一人で悩んでいる方が多いと感じます。結果的に課題が大きくなってから相談に来る方も少なくありません。電気、ガス、水道や税金の滞納等から経済的に困っている方を把握し、早期に支援をしていけるような地域のネットワークが必要だと感じました。

「平成26年度アルコール問題関連問題研修」

6月26日（木）千葉県庁にて、御徒町榎本クリニックの齊藤P SWより「セルフネグレクトと高齢者のアルコール問題～底つきを待たない介入の実践～」と題して講演がありました。県内の地域包括センターの職員を中心に、約150名の参加があり、会場は満席でした。この問題に対する関心の高さ、対応の困難さが伺えます。

榎本クリニックでは、デイナイトケアを中心に、診察・薬物療法・プログラム参加に加え、食事（昼・夕）の提供、金銭管理、シャワー浴による清潔保持、送迎など、本人の生活を包括的に支援しています。また、援助を求めてこない対象者に対しても、アウトリーチなどの手法を用いて援助者側が積極的に働きかけ、問題解決に取り組んでいます。家族やネットワークの「覚悟」をいかに引き出すか、援助者の合意形成能力が求められます。

アルコール問題の支援では「底つきを待つ」という言葉をよく聞きますが、生命の危機にあること放っておくことができない状態の方には、本人の意思を尊重せず、ある程度の強制力を持って介入する必要があるとのことでした。最後に、断酒を短期目標にするのではなく「少しでも人間らしい生活を取り戻す」ことを目指し、根気強く関わるのが大切との言葉がありました。あいネットでも、支援が必要だが本人のニーズはないケースは少なくありません。時期を待つ介入か、待たずに介入すべきケースかの判断はもちろん、対象者のニーズを引き出せる支援をしていけるよう、努めていきたいと思えます。

むすぶ会総会

6月17日（火）平成25年度総会に出席しました。かしわ障害者をむすぶ会には、柏市内の障害当事者、関係事業所など、32団体が参加しています。今年度も引き続き、自立支援協議会・障害者活動センター設置・バリアフリーなどを推進、障害者福祉をめぐる諸課題に的確に応えるよう、自立支援協議会等の各種会議に参画し、提言等を行います。また、災害時における障害者支援活動の推進として、防災委員会を開き、市や社会福祉協議会、柏障連などと協力した取り組みを行っていく予定です。「顔の見える関係づくり」を目指し、障害当事者、関係団体を対象とするイベントの企画や、地区社協との交流を通して、地域社会との関わりも積極的に推進していきます。



むすぶ会の活動に関するお問い合わせは、事務局（あいネット）までご連絡ください。



フードドライブ ご協力ありがとうございました！



お米やレトルト食品など、多くのご提供をいただきました！中にはご近所にかけてくださり、大量の食品をお持ちいただく方も・・・ご協力いただいた食品は、フードバンクを通じて、個人支援を中心として、大切に、大切に使用させていただきます。

フードドライブは定期的に関催しております。次回開催につきましては、広報紙等でお知らせい

柏市いじめeメール相談および通報



6月1日より、「柏市いじめeメール相談および通報」が始まりました。
(<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/285000/p018759.html>)

この制度は、いじめに悩んでいる児童生徒が対象となっているメール相談システムです。柏市に住んでいる小学校1年生から高校3年生の方および市外在住で、柏市内にある学校に通学している小学校1年生から高校3年生までの方が対象になっています。受付は24時間年中無休で、フォームに入力してメールを送ると、専門の相談員から返信が返ってくる流れになっています。いじめに悩んでいる本人だけでなく、友人がいじめの被害にあっているなどの相談も受け付けています。

※保護者の方は、やまびこ電話相談（04-7166-8181）、少年相談（少年補導センター：04-7164-7571）をご利用ください。（いじめに悩む本人も相談できます）

この相談窓口は、「柏市児童虐待及びいじめ防止条例」をもとに作られました。電話やメールなどを利用して、いじめの早期発見・早期解消に取りくみます。いじめの情報を得た場合、本人の了解を得て学校に通報し、いじめの事実確認や指導などを行っていきます。暴力をふるったり、脅したりといった恐喝、自殺に追い込むような行為は「犯罪」になりますので、即時対応を行います。

最近のいじめの傾向は、SNSやインターネットのサイトなどを利用した、ネットいじめが増えているとの事です。ランキングサイトや投票サイト、SNSを利用していじめるといったケースが増えているようです。少年補導センターでは、「サイバーパトロール」も行っており、インターネットやSNS上でいじめにつながるような記事、写真などがあれば、警察と連携して対応をしているとの事です。

いじめの解決には、早期発見・早期対応が大切になっています。親や学校の先生にはなかなか相談しづらいとき、メール相談ならば相談しやすいのではないのでしょうか。ちょっとしたことで何か悩んでいる事、変だなと思うようなことがあれば、メールをしてみてください。いじめによって不登校や、転校をするケースもあります。いじめられている生徒が学校に居場所をつくり、安心感を得て通学できる環境づくりも大切なのではないかとこの事でした。

少年補導センターでは下記のカードを市内の市立全学校に配布しました。いじめeメール相談および通報は始まったばかりなので、まだ相談件数が少ないようです。ぜひ活用してみてくださいね。



お知らせ

こちらのコーナーへ掲載希望の方はあいネットまで
(TEL: 04-7165-8707 FAX: 04-7165-8709)

モラージュ柏「ママサポ」プロジェクト 「夏休みこども障がい理解教室」のご案内

- ◆日時：平成26年7月25日（金）
「車いすアスリートのトークイベント」1045～
「障がいのある子も一緒に遊ぼうすぎやまこうじのシャボン玉ショー」①1130～ ②1330～
- ◆平成26年8月23日（土） ①1030～ ②1300～
「ぼくはうみをみたくなりました」上映会（113分）

- ◆会場 モラージュ柏 2階ホール（両日とも）
- ◆料金 すべて無料
お申し込みは不要です。直接会場へお越し下さい。
<http://was-kashiwa.jimdb.com/>
- ◆問い合わせ先 090-3428-5328
障がい理解推進チームWa's（おおどなり）
- ◆後援 柏市 柏市教育委員会